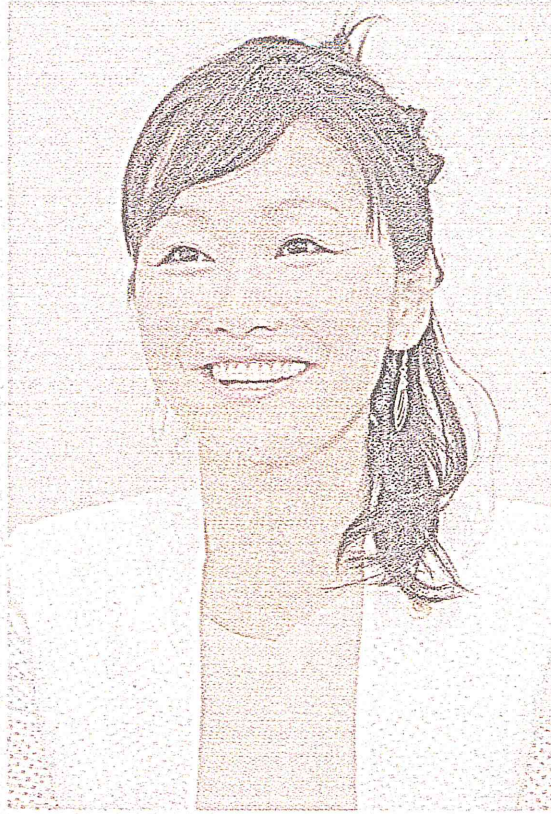


「2008年の開業以来、走りっ放しだった」と振り返る松井さん



(まつい・ゆか) 松井 由香さん

名古屋行政書士事務所代表

人生の大切な部分をお手伝い

JR名古屋駅近くにオフィスを構える名古屋行政書士事務所(名古屋市市中村区椿町)。代表の松井由香さんは30歳代前半に行政書士の資格を取得し、2008年に独立。法律家になる夢をかなえた。現在は建設業の許可申請に加え、外国人の日本国籍取得や相続手続きなど幅広い内容の依頼が舞い込む。「法律家は堅苦しいイメージを持たれているが、明るい印象を持ってもらいたい」と、常に前向きな気持ちで依頼者の相談に応じている。

<大切な言葉>

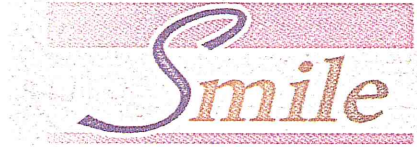
「依頼者の期待を3倍返し」

ご依頼者の期待以上の仕事を行う気持ちを常に胸にとどめている。依頼者が求めているのは確実性や迅速性。依頼者に「松井さんに相談して良かった」と思ってもらえるよう、常に丁寧な仕事を心がけている。



依頼者の相談に明るい雰囲気に応じている(写真右が松井さん)

松井さんは津島市で行政書士事務所を開業した。もともと地元のホテルに勤めていたが、30歳代に入り法律家という目標を再び志したのがきっかけだ。「当時、今後の人生をどう歩もうかじっくりと考え、行政書士に挑戦することを決めた」と振り返る。



行政書士の資格取得に向けて勉強を始めたが、当時は会社に勤め子育てもしていた。子供を寝かしつけた後などのわずかな時間を見つけては勉強時間に充て、資格の取得にこぎつけたという。

日本国籍の取得事務に強み 東京、海外事務所開設が目標

開業当初から幅広い依頼内容に対応してきた。もともと勤めていた会社や地域の知り合いを中心に依頼を受けた。丁寧な仕事を一件一件積み重ねるうちに、次第に松井さんの仕事ぶりが評判に。「周りの方を中心に

の記入方法を理解できないと対応できな」と強調する。ほかの行政書士事務所では比較的苦手とされている業務だが、松井さんは開業当初から果敢に挑戦してきた。現在は年100件以上の実績を

提供しようと、障害者の就労施設に関する建設許可の取得などを支援したい考えだ。加えて東京都内や海外のオフィスの開設も目指している。松井さんの挑戦はまだまだ続

今後多く の目標を描いている。障害者に就労機会を立って親身に相談に応じているからだろう。

困ったときにお声かけし残している。開業から7年目を迎えたが、これまでもいままも全力で依頼に応じていたことで、徐々に依頼件数も増えていった。依頼内容のうち外国人の日本国籍取得は、就職や結婚を控える在日韓国人などからの依頼が多い。「外国人の日本国籍取得に関する手続きは複雑で、日本と外国の書類

までもいままも全力で依頼に応じている。「行政書士の仕事は依頼者の人生がかかっている。常に人生の大切な部分をお手伝いさせてもらっている」という「気持ち」を胸にとどめていたためだ。依頼者となる外国人が日本国籍を取得できたときには、依頼者にとっても涙することもある。依頼者の立場に立って親身に相談に応じているからだろう。